

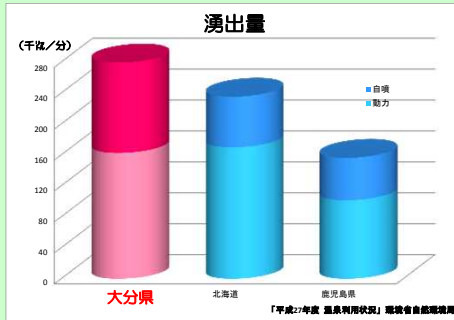
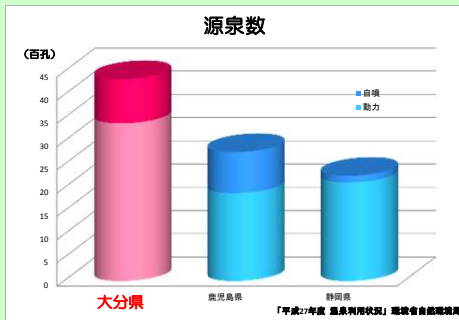


日本一のおんせん県おおいた

鉄輪温泉郷から望む自然景観（別府市）

おんせん県おおいたのおんせんって？

大分県の源泉数は4,342孔。これは全国の源泉数の約16%に相当します。また、大分県内の湧出量でみると約279キロリットルあり、自噴湧出、動力湧出ともに日本一です。県内いたるところに温泉があり、8つの個性豊かな温泉郷からなる別府八湯（別府市）、自然景観の美しい観光地として有名な由布院温泉（由布市）、1300年の歴史を持つ天ヶ瀬温泉（日田市）、冷泉・にがり湯・うたせ湯・壁湯とバラエティに富んだ九重”夢”温泉郷（九重町）、豊富な炭酸ガスを含んだ泉質が特徴的な長湯温泉（竹田市）などがあります。



長湯温泉（竹田市）

大分県内市町村の湧出量 BEST 5

大分県内には、療養泉に分類される泉質10種類のうち、8種類があります。個性的な温泉が多く、温泉の色や泉質をはじめ、その入浴方法や場所など、全国的にも珍しい変わった温泉を堪能することができます。大分にお越しの際は是非、足をお運びください！



第5位
日田市
13,806

天ヶ瀬温泉（日田市）

玖珠川沿いにある天ヶ瀬温泉は、別府や由布院とともに豊後三大名泉に数えられ、豊後国風土記にも記録が残る歴史ある温泉地です。

九重町は、個性豊かな温泉を楽しむことができます。うたせ湯で有名な筋湯温泉や14度の冷泉が流く霧の地獄温泉、ホテルの名所としても知られる至泉寺温泉や絶景が魅力の九酔溪温泉など魅力が満載。文豪「川端康成」が訪れた温泉もあります。



第3位
九重町
19,760



釜ノ口温泉（九重町）

全国的に有名な由布院温泉があり、絶景の大浴場などの景色や、泉質の違いなどで湯めぐりを愉しむことができます。湯平温泉では、風情ある石畳の坂道と花合野川に沿うように温泉があり、せせらぎに耳を澄ませれば身も心も癒されます。塚原温泉では、酸性度の高さやアルミニウムイオン・鉄イオン含有量は日本有数という抜群の泉質です。

第2位
由布市
48,188



由布院温泉（由布市）

第1位
別府市
82,806



観海寺温泉（別府市）

源泉数、湧出量共に日本一。世界有数の温泉地であり、温泉王国大分県の中でも一際存在感を放つ別府には、「別府八湯」と呼ばれる代表的な8つの温泉が、市内全域に点在しています。それぞれの温泉郷は特徴が異なっており、何度行っても飽きないと言われるのが、別府の温泉です。

第4位
大分市
16,764



大深度地熱温泉（大分市）

地下600～800メートルの深層から湧出する非火山性の大深度地熱温泉は、大分市街地を中心に30カ所以上点在しています。



日本一のおんせん県おおいた

温泉だけじゃない！？ 地熱発電も日本一！

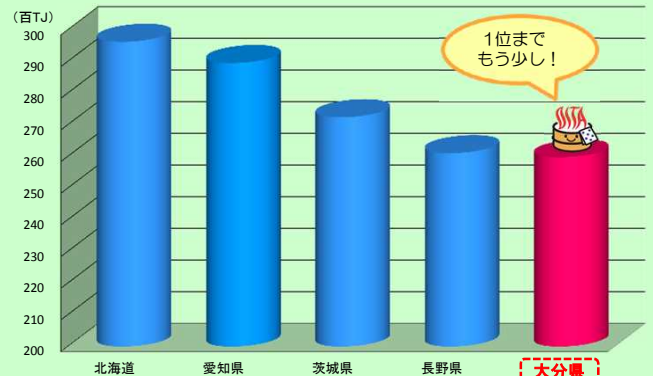
八丁原地熱発電所（九重町）

再生可能エネルギー自給率



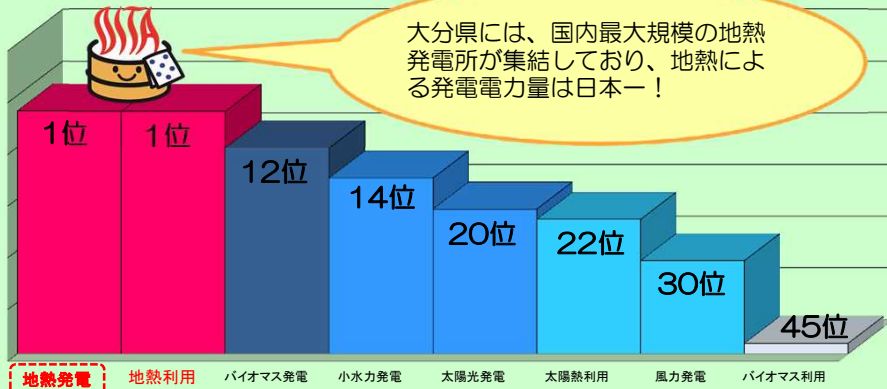
資料：「永続地帯2016年度版報告書」千葉大学倉庫研究室・認定NPO法人環境エネルギー政策研究所（2016年3月末時点）

再生可能エネルギー供給量



資料：「永続地帯2016年度版報告書」千葉大学倉庫研究室・認定NPO法人環境エネルギー政策研究所（2016年3月末時点）

再生可能エネルギー供給量の種類別 全国ランキング



資料：「永続地帯2016年度版報告書」千葉大学倉庫研究室・認定NPO法人環境エネルギー政策研究所（2016年3月末時点）



発電量は？

【地熱発電】
地中深くから取り出した蒸気で直接タービンを回し発電するもの

【地熱利用】
温泉熱と地中熱からなる。
〈例〉温泉熱については、温泉施設ごとに浴用にお湯を加熱するのに必要な熱量を温泉が代替している熱量及び温泉熱の他目的利用（ロードヒーティングや融雪など）の利用熱量で推計



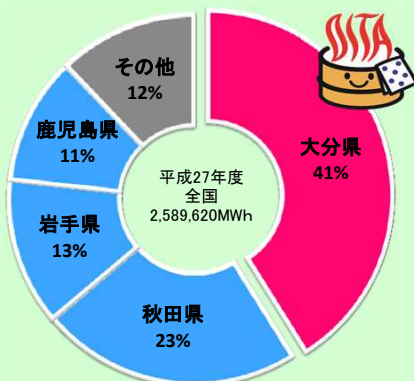
種類ごとの全国ランキングはこちら

おおいたトリビア

地熱発電の発祥の地は
大分県別府市です！

別府出身の高橋廉一氏が、イタリアで地熱発電を見聞した後、地熱研究開発のため豊富な温泉地獄のある別府へ帰郷し、地熱研究を始め、大正14年11月に地熱発電に成功しました。

地熱発電電力量



資料：「地熱発電の現状と動向 2016年」一般社団法人火力原子力発電技術協会

国内最大の地熱発電所

八丁原地熱発電所（九重町）



【位置】

阿蘇くじゅう国立公園と耶馬日田英彦山国定公園の美しい山々に囲まれた高原に位置しており、自然の恵みを利用した地熱発電が行われています。

【発電能力】

11万キロワットの電気を発電することができます。これは一般家庭の約3万7千軒分（1軒3キロワットと仮定）の電気を賄うことができる電力量です。また、年間で約20万キロリットルの石油を節約できます。



おんせん県おおいたの全国ナンバーワン!



温泉源泉総数
平成27年度末：4,342孔

資料：「平成27年度温泉利用状況」(環境省自然環境局)



温泉湧出量
平成27年度末：279KL/分

資料：「平成27年度温泉利用状況」(環境省自然環境局)



七島イ生産量
平成28年：8,6トン

資料：大分県農林水産部園芸振興室調べ



かぼす収穫量
平成26年：5,400トン

資料：「平成26年特産果樹生産動態等調査」(農林水産省)

めじろんね、
大分県が日本一になって
いるものを集めてみたよ♪



大分県応援団「鳥」めじろん



まだけ竹材生産量
平成27年：49千束

資料：「平成27年特用林産基礎資料」(農林水産省)



県指定有形文化財(建造物)
平成28年5月1日現在：207件

資料：「地方の指定文化財」(文化庁)



乾しいたけ生産量
平成27年：1,115トン

資料：「平成27年特用林産基礎資料」(農林水産省)



サフラン(花芯)生産量
平成26年：19kg

資料：「薬用作物(生薬)に関する資料」
(公益財団法人日本特産農産物協会)



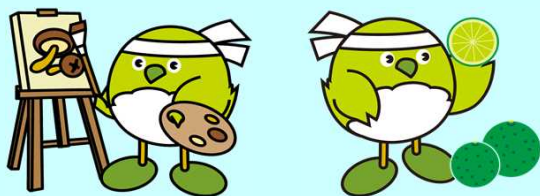
再生可能エネルギー自給率
平成27年度：32.2%

資料：「永续地帯2016年度報告書」
(千葉大学倉敷研究室+認定NPO法人環境エネルギー政策研究所)



ホオズキ生産量
平成26年：1,020千本

資料：「農林水産省統計部調査対象外花きの生産状況調査」(宮崎県)





日本一の おんせん県おおいた

味力も満載 (食べ物編)



大分県には全国に誇れる食がたくさんあります。
例えば"からあげ"、大分県北部はからあげ専門店の激戦区となっており、各店でいろいろな味が楽しめます。

かぼす収穫量日本一



かぼすは他の柑橘類に比べて酸味がまろやかで、焼き魚や素材の味をひきたたせます。「かぼすをかけないのはごはんくらい」と言われるほど、食卓にはなくてはならない食材となっています。



「平成26年特産果樹生産動態等調査結果」(農林水産省)



かぼすブリ



柑橘系の抗酸化作用をもつ“かぼす”をエサに添加した“かぼすブリ”は、より鮮度を長く保つことができます。さらには、“かぼす”に含まれるリモネンの効果により魚臭さが抑えられ、脂がのってさっぱりとした肉質に仕上がっています。

かぼすヒラメ



生産量トップクラスを誇る大分県の“養殖ヒラメ”と“かぼす”のコラボレーションによって生まれた一品。淡泊な白身の高級魚として名高いヒラメに、“かぼす”果汁を混ぜた餌を食べさせ、成長させることで、透き通った肉厚な身は甘みをもちながらもさっぱりと洗練された味わいになります。

乾しいたけ生産量日本一



乾椎茸の生産量も、全国の約5割を占め、日本一です。毎年行われている2017年「第65回全国乾椎茸品評会」では、19年連続通算51回目の団体優勝を果たすなど、品質も日本一です。



「平成27年特産物生産統計調査」(農林水産省)

大分県特産の椎茸を利用した「にぎり寿司」です。シャキッとした大根と、やわらかな肉厚しいたけの歯ごたえが特徴的です。一口食べると、しいたけの甘みと大根の酸味、更に酢飯の甘酸っぱさと大葉の爽やかな香りが口の中いっぱい広がります。

雪ん子寿し



鶏肉購入数量全国4位。

からあげ



大分県北部には、“からあげの聖地”中津、そして“からあげ専門店発祥の地”宇佐があります。からあげ専門店の店舗数はコンビニよりも多いのだとか。

とり天



鶏肉に衣をつけて揚げ、ポン酢や練りからしをつけていただきます。とり天は大分で知らない人はいない！と言っても過言ではない、定番の郷土料理であり、家庭の味でもあります。

※家計調査(二人以上の世帯) 品目別都道府県庁所在地及び政令指定都市ランキング(平成26年~28年平均)

他にも、大分の郷土料理である“りゅうきゅう”や“ひゅうが丼”、別府冷麺、スッポン料理、など大分県には味力が満載です。

おんせん県おおいた が世界に誇るもの

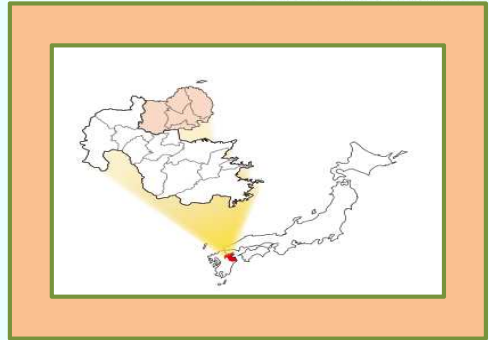
世界農業遺産 (GIAHS)

『国東半島・宇佐の農林水産循環』

Kunisaki Peninsula Usa Integrated Forestry, Agriculture and Fisheries System

写真(豊後高田市田染荘)

クヌギ林とため池群によって持続的に維持されている、**日本一**の原木しいたけ生産をはじめとする農林水産業システムが**世界的に価値のあるもの**として、**世界農業遺産に認定**されました。



豊かな自然・産業をはぐくむクヌギ

明るいほだ場を活用し、高品質な乾しいたけを生産

現代に生きる中世の荘園〔田染荘〕



原木

ほだ木



ほだ場

乾しいたけ生産量は**日本一!**



廃ほだ木

複数のため池を連携させた用水供給システム

国内唯一の七島イ (シチトウイ) 産地

雨水

灌漑用水として利



ため池

クヌギ林

- しいたけ原木の供給
- 膨軟な土壌による保水
- 安定した湧水の維持
- 地域景観の形成

大分県が誇る名産品 七島イ (シチトウイ)

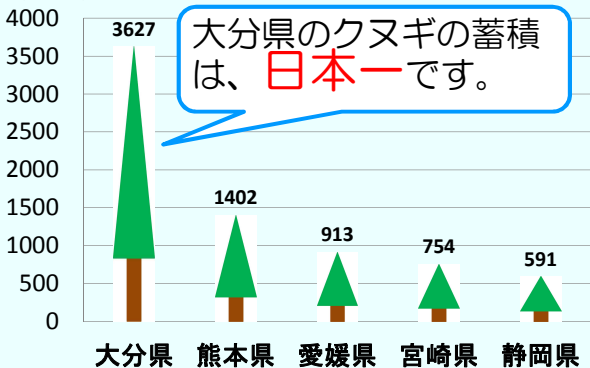


七島イ (シチトウイ) 製品の写真

七島イ(シチトウイ)生産量
都道府県別割合
(28年)



天然林樹種別蓄積(5条森林)(クヌギ)



大分県のクヌギの蓄積は、**日本一**です。

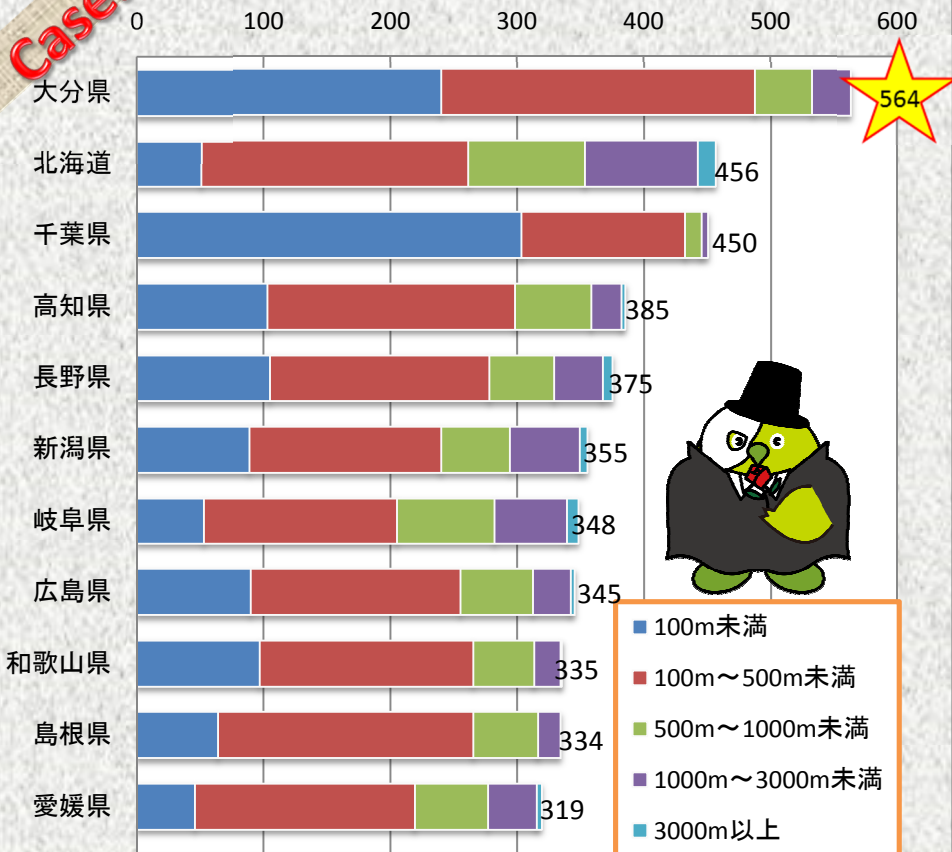
平成24年森林資源の現況(林野庁)

七島イ (シチトウイ) は、大分県の国東地方だけで生産されているカヤツリグサ科の植物で、主に畳の材料として利用されています。

今日では、限られた生産量の中で、丈夫で耐久性に優れる七島イの特性を生かし、ラグマットや円座、草履など国東地域の工芸品の材料としても広く活用されています。

Case.1

道路トンネル数トップ20



- 100m未満
- 100m～500m未満
- 500m～1000m未満
- 1000m～3000m未満
- 3000m以上

出典:国土交通省「道路統計年報2016」



大分県に設置された道路トンネルの数は、日本一である。広大な北海道や日本アルプスを擁する長野県などを抑えての一位。トンネルを抜けると、そこはミステリーである。灰色の脳細胞を持つ統計探偵めじろんが謎の解明に奔走する！

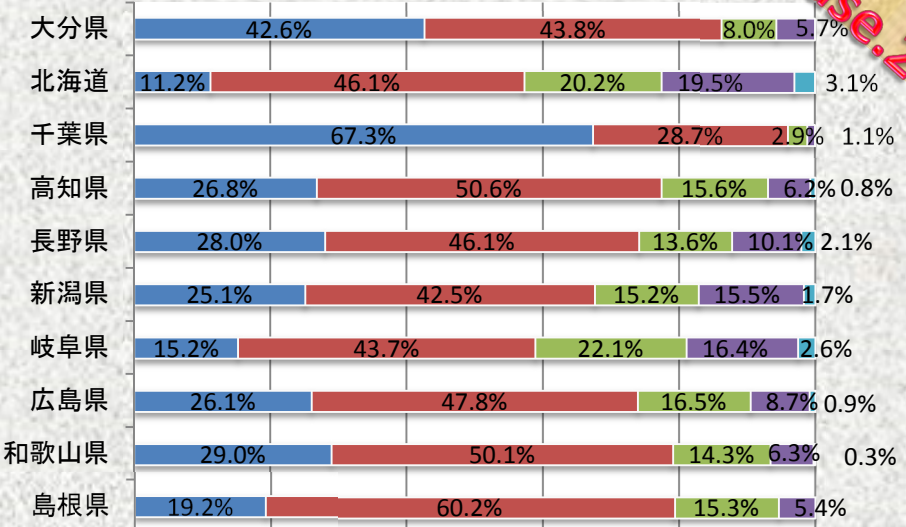
日本一の謎

道路トンネル数

おんせん県おおいた



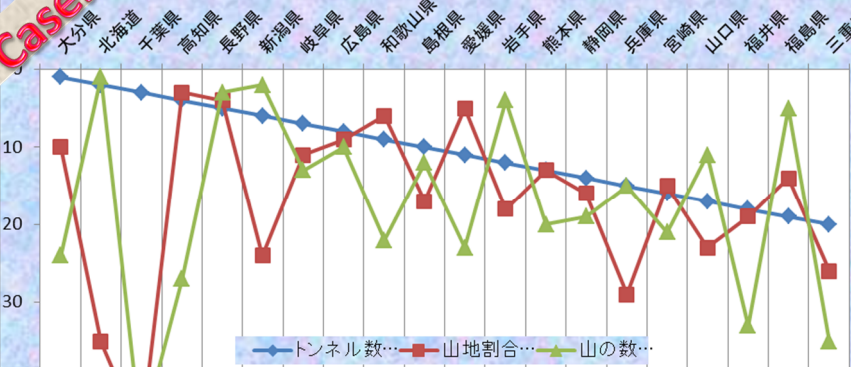
道路トンネル数トップ10の延長階級別構成比



Case.2

Case.3

道路トンネル数・山地割合・山の数トップ20の関係(単位:位)



出典:総務省「第65回 日本統計年鑑 平成28年」、「第66回 日本統計年鑑 平成29年」
国土交通省国土地理院「平成28年全国都道府県市区町村別面積調」
武内 正・石丸 哲也著「日本の山を数えてみた データで読み解く山の秘密」

Case.1によると、大分県の道路トンネルは564箇所あり、2位に100以上の差を付けた。

Case.2で構成比をみると、大分県の道路トンネルは延長500m未満が86.4%を占めており、長さの短いものが多い。

Case.3では、山地面積を都道府県面積で除算して山地割合を算出し、ランキングを作成。あわせて、山の数ランキングも調査。その後、道路トンネル数トップ20との関係を表すグラフを作成した。すると、大分県は「道路トンネル数・山地割合・山の数のランキング値は近似値をとらない」という傾向を持つことがわかった。これは、すべて又は複数のランキング値が、比較的近似値を取る県が多いなか、珍しい結果といえる。

したがって、山地だけでなくリアス式海岸の複雑な海岸線が影響している可能性もあるので、ひきつづき調査を要する。

Case closed...?

